

第 1 回市内高等学校在り方検討会会議録

日 時	令和 5 年 8 月 7 日（月） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 1 5 分
場 所	丹波篠山市民センター 2 階催事場 1・2
出 席 者	別紙名簿のとおり
事 務 局	（企画総務部）竹見部長 （総務課）河南課長、山田副課長、近成課長補佐、野々口主事 （学校教育部）西羅部長（教育総務課）酒井課長

会議の概要

1 開会

2 委嘱状の交付

3 市長あいさつ

4 自己紹介

5 副委員長の選任について

6 会議の公開について（事務局説明）

7 報告事項

教育総務課酒井課長、総務課山田副課長から資料に基づき説明

- ・ 過去 7 年間ににおける中学校卒業時の進学状況
- ・ R 4 年度 中高連携事業の実績について
- ・ 令和 4 年度 丹波篠山市中高連絡会連携事業実績
- ・ 丹波篠山市における篠山東雲高等学校の振興施策
- ・ 市内高等学校活性化市民会議の取組について

- ・ 県立高等学校の望ましい規模と配置について
- ・ 【参考】年齢別人口・中学校別生徒数

8 意見交換

（委員 長）市内の高校を盛り上げるため、できるだけいろんな施策をとってきたつもりだ。鳳鳴高校では、地域探求の授業に市の職員も関わったり、提案を市政の中で生かしたりするようにしている。産業高校ではスポーツ振興官として長澤宏行先生に来ていただき野球部の監督に就任いただいて、鳳鳴高校とも試合をしたり、スポーツを通して盛り上げようとしている。東雲高校は保護者の方が少ないということで特別にいろんな支援策をしているところだ。3 高校とも定員割れをしているのが現実で、鳳鳴高校は定員 160 人のところ入学者が 131 人、

産業高校は全科で定員 160 人のところ 146 人、東雲高校は 40 人定員のところ 23 人となっている。

兵庫県の進める発展的統合の中で、基本的な方向性が示されており、普通科・総合学科で 1 学年 6～8 学級となっているが、鳳鳴高校だけで 4 となっており、県の示す望ましい規模から外れてしまうことになる。また、職業学科で 1 学年 3 学級以上になっているが、市内には 1 学級しかなく元から外れてしまっている。県はそういった方向で基本的に考えておられて、2 年後には丹有学区で 2 組 4 校の案を出すし、引き続き望ましい規模になるようにさらに検討されていくわけで、2 年後仮に当たらなくても、その先に同じような話になることを踏まえて検討していきたいという趣旨だ。子どもたちの数が厳しい数字になってきているので、その中でどう考えていくかということだと思う。

説明をした中で、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

(Aアドバイザー) 「県立高等学校教育改革第三次実施計画」について、追加の説明をさせていただく。P33、学級規模という話が出てきたが、丹波篠山市は第 2 学区、丹有の欄となる。6 学級規模の学校が有馬、北摂三田、三田祥雲館の 3 校である。普通科で 1 学年 5 クラス規模の学校が、三田西陵、柏原、4 クラス規模の学校が篠山鳳鳴、職業学科の学校である篠山産業、同じく職業学科の氷上が 3 クラス、1 クラスが氷上西と篠山東雲になっている。ほかの学区と比べていただくと、南但・北但学区と比較すると、それよりは三田の方が人口は多いが、豊岡、八鹿高校もこの規模になっている。第 4 学区の西播磨地区、沿岸部から山間部に入った地域を多く抱える地域がそうになっている。P32、第 2 学区を見ていただくと、面積はかつての阪神学区より丹有学区が倍ほどある。阪神学区は高校がこれだけあるが、それでも県立及び市立への進学者が減っており、定員割れがどんどん進んでいる。篠山口から複線電化で尼崎まで 1 時間ちょっとで行ける。宝塚で阪急に乗り換えると、神戸の三宮まで 1 時間 20～30 分で行ける。交通至便と地理的条件を見ると、篠山口から交通至便になったことがメリットでありデメリットである。東播磨と西播磨は沿岸部と山間部はこれだけ違う。但馬は広い地域の中にこれだけ点在している。こういう中で、兵庫県として統一的な学校の統廃合及び発展的統合という形を出してきているということ踏まえていただきたい。

P31 の表が兵庫県の高校教育改革の全てである。普通科を総合学科あるいは単科に変えて、普通科に特色あるように平成 12 年から平成 20 年ぐらいまで改革をしてきた。それと特色ある専門学科、今でいう理数科、国際学科はそこに書いてあるとおり。まだ全日制を発展的統合させるまで子どもたちの人数が減っている時期ではなかった。まず、定時制の危機的な状況が最初にあった。その後、「望ましい規模と配置」「分校募集停止等」のところにあるように、定時制を発展的統廃合し、分校を全て廃止してきたが、1 つだけ異なるのが東雲校を篠山東雲高校として本校化する、これは改革とは全く別方向へ 1 本だけ打ち出されている。その後、平成 30 年篠山産業がそれまで若干定員割れしていたので、小学科をやめて大学科にしている。5 学級から 4 学級に 1 学級減らして大学科を作って、子どもたちの選択の幅に柔軟性を持たせた、篠山産業の改革は、基本的にここで一旦終わっている。それを継続発展させる段階という認識が県の教育委員会にはあると思う。産業高校をいらう気はないと思う。P6、「1 全日制普通科・総合学科」の項目の「コース」に書かれているとおり、「コ

ースについては、これまで培ってきた・・・STEAMに関する学科又は・・・」、これが鳳鳴高校が3月に発表された来年からできる新しい学科であり、鳳鳴の新学科の改編はこれで終わっている。結論を県は出したので、普通科クラスが3クラス、学科は置きますということですから、発表どおりにしている。11ページ篠山産業に係る職業教育を主とする学科、従前は商業科、家庭科は専門学科ではなかったが、今は専門学科になっている。その中に書いてあるように発展的統合等の文言はいっさいない。ポイントは、「ただし、生徒のニーズや地元産業とのつながり等を踏まえ、必要に応じて、各学科のあり方を見直し、専門分野の重点化や学科改編等について検討する。」だけである。産業高校本体、教育内容等については、県の方はいらうつもりはないのかなあと思う。

(委員長) ご質問なりありましたらお願いします。

(Bアドバイザー) 篠山で40年ほど学習塾をやっていて生徒さんを見てきた。三田でも成績上位者が三田の学校に行かずに市外に流れている。高校入試は、内申書と本番の学力試験の2本立てになっており、推薦してもらうためには、内申書をあげておかなければならない。あとは本番の試験で点数をとらないといけない。推薦してもらう条件として、4よりは5の数が多い方がいい。5をどれだけとれるかということで、親子ともに壮絶になっている。その中で、地元の中学から地元の高校へ行く子も何人かは残っている。三田も定員を満たすため苦勞されている。北摂三田も従来定員オーバーしていたが、定員ギリギリになっている。高校に対して中学生がどういうイメージを持っているかという、北摂三田は校則が厳しい、非常に管理されている、ちょっと躊躇してしまうというイメージ。祥雲館については、校舎を含めて開放的で自由である。単位制で自分のやりたいことがやれる。部活動もチアリーディング部があったり、バドミントン部があったり、比較的リベラルなイメージだ。ここ2・3年感じていることだが、祥雲館の締め付けが厳しくなっている印象がある。中途退学率も高くなってきているようだ。進学率だけ見た場合、やはり北摂三田の方がいい。全国の大学進学率は56.6%である。資料によって違うようだが、京都府が第1位(69.8%)、第2位東京都、第3位兵庫県(64.3%)、大阪と続いていく。7割は、大学進学を目的にして高校に進学すると思う。中学3年生の保護者がどこで判断するかといえば、ホームページや広報に載っている大学進学率を見る。兵庫県立大学が入学金、授業料も大学院まで含めて兵庫県民は無償になった。230億の予算で、兵庫県としても県内にできる子を残したいというのがあると思う。特色ある学校づくりの中で、部活動を入れたりいろいろあると思うが、その一つとして進学率がある。この間鳳鳴のオープンスクールに行ってきたが、自分の子どもがもう一度高校生になるとしたら、STEAMに行かせたいと思った。御影と宝塚北、鳳鳴の3校しかないので、ワシントン大学への語学留学も目玉になってくると思う。産業高校等各校についても生徒を入れていかないと行かないと思うが、鳳鳴高校の160人を定員いっぱいにする、STEAMも今1年生が3

1人だが40人をちょっと超えるくらいになればいいと思う。

中学生の学力が落ちてきているように思う。いわゆる下位層の子が増えてきているように思う。この4～5年で指導困難なお子さんが増えているように思うが、丹波篠山市の現場としてはどうか。

(C 委員) 全国学力調査の結果からみると大きくは変わっていない。全国の推移からみると、全国のちょっと上を行っている。昔も変わってないと思うが、個に応じた指導をしていくということで、特別支援学級の希望者が増えている。指導の方法は、少人数授業であったり、通級指導であったり、きめ細かい指導に変わってきている。一斉授業から取り出しをしたり、実際負担もあるが人をつけてもらったりしながらやっている。昔のように人を蹴落としてもというよりは、今はみんな一緒にやろうという協働意識が強いイメージだ。

(D 委員) 小学校の方は、先日全国学力テストの結果が出たが、県の全体と結果と大差ない結果が出ている。数年前まで二極化が言われていたが、緩和されてきているように思う。ICTを取り入れて一人一台タブレットでするようになっていて、基礎基本の徹底ということで教え込むというよりは自分たちから自ら学ぶこと、個別最適な学び、協働的な学びに学校も移行している。今の学力がもし低かったとしても経年的に見ていくと、子どもたちは伸びていくと見ている。今後、高校のSTEAM教育に向けて学びができるように、小学校でも探求学習をやったり、自ら学んで社会に生かせるような力をつけるようにやっているので、学力面で判断するというよりは、いかに自分で自分の学びを計画してやっていけるかというようにシフトしている。

(C 委員) 阪神間とは風土的に随分違う。阪神間は、工業科職業科があまりなくて、普通科に行って大学に行く流れが多く、それ以外の私立に行くというのがある。宝塚の学校では、学力テストでも10ポイントぐらい上をとってくるような地域で、その背景には家庭教育力が大きな差になっていると思う。最近思うのは、家庭に学校が入らないといけないケースが多いと感じている。

(Eアドバイザー) Bアドバイザーの言われたことは、現実だと思う。分校は廃止の方向だったが、東雲を1校単独校で残す意義は、地域や農業の将来性を含めて残さないといけないということで唯一残った。鳳鳴高校を5クラスから4クラスに減らすときに、5と4では全然違うという大変な議論があった。そのうちクラブ活動もできなくなるし、いろんな弊害が出てくる、先生の配置も違ってくる。当時5クラスで定員割れにもなっていたので、現場の声を聴くと、東大へ入れる学力から分数ができない学力までの幅がある。試験で一定の点数がとれない場合でも、定員が割れている間は絶対に落とさない。Aアドバイザーのおっしゃった鳳鳴高校と産業高校はさわらないという見方だった。でも、このまま定員割れが続いていくと結局同じことになる。逆に言うと、Bアドバイザーの言われたようなことは、現実不可能になる。そういう流れの中で、何をどうしていくか根本的なところから考えないと、東雲の問題だけだと捉えてしまうと三すく

みになる。義務教育の小中学校でさえ学校統廃合の問題が出て、統廃合されている。でも、高校は義務教育ではない。自由意志だ。そこに私情も出てくる。そうなってくるときに本当にどうしますかという根本を今考えておかないと、この計画で次そのまま出しますとなると、東雲をどうするのかという話で終始終わるのではないか。

保護者も、子どもが高校を卒業してしまうとその家庭では関心がなくなる。だから、今子育て中の人とか学校の先生とかが、先をどうするか考えないといけない。普通科の特色は究極進学率しかない。定員割れが続くと、先生がどこを焦点に教えたらいいいのか困ることになる。全体のバランスも含めて、2・3年後ではなく先をどうするのか真剣に捉えていかないと、地域の高等教育は国家の財産でもあるのでいい加減にすると、この地域の存在価値もなくなってしまう。しっかり真剣に時間をかけて検討していくべきだと思う。

(委員 長) 各中学校のPTAの役員の方もお越しいただいているので、日頃子どもさんと一緒に高校をどのように見ておられるかなど1人ずつお願いしたい。

(F 委員) 去年(高校を)卒業した兄が鳳鳴で、まだ進学は決まっていないが、マレーシアに留学をしようかということで探しているところで、それと同時に中3の娘、家族の移住も視野に入れている。市内の高校については、自分は農業もやっているのですが、東雲の専門性のある農業高校の意義をもって、何か市を盛り上げるような方法はないかと思っている。

(G 委員) 高2、中3と小学生の子がいる。高校生の子は市外に行っている。どこの高校に進学しようかという話をした時に、これがしたいからここに行きたいという明確なところはなかった。親の意見や大人の意見よりも、子ども同志でSNS、携帯などから高校生の知り合いの人たちの話がどんどん携帯で送られてくる。市内のここに行っているけど来ない方がいいとかいう話も出ている。面白くないとか子どもたちの中で話が出てきて、鵜呑みにするわけではないが、今こっちの方が人気だからこっちに行きたいというところがあった。市内の高校のオープンハイスクールに実際行ってみると、面白かった、楽しかった、先輩の話を聞いて良かったというところはあるが、通われている子どもたちが面白さをもっと見い出せるような学校生活を増やしていってもらって、この学校に来たらいいよという声を発信してくれる子どもたちを増やしてほしい。親としては市内の高校も魅力的である。

(H 委員) 親としては、自分の子どもは地元の学校に行ってほしいと強く思っている。篠山は3校とも特色があり、地域密着型の取組をされていたり、専門性の高い教育をされていたり、STEAMなど新しい教育を取り入れたりされているので、自分は地元の学校に行ってほしいと思っている。長男は3月まで地元でお世話になったが、最初は情報力が分からないが三田の学校に行きたいと言った。西紀は通学の難しさがあるので、家族会議のもと地元に行くことになったが、結果的に楽しかった、充実していたと言っていた。中3の子は地元の学校に行きたい

と言っている。STEAMはじめ新しいことができることに魅力を感じていることと、海外で学んでみたいという思いを持っているので語学留学の情報もキャッチして、地元の学校に行きたいということで先生とも話をしている。長男が市外の学校に魅力を感じている時期があり、同級生も結構流れていった。説明会の時に魅力的でインパクトに残るプレゼンをされたようで、子どもたちはそこに魅力を感じていたようだ。学校から、友達から、先輩からなど魅力をいかに保護者も含めて当事者に伝えていけるかというのが大きいのかなと感じている。

- (I 委員) 自分は篠山の高校に通っていたが、娘は三田の高校を視野に考えているようだ。今田は三田に行きやすい環境なので、比較的多い感覚がある。学年によっても違うが、去年は篠山の学校にたくさん行かれたと聞いている。
- (アドバイザー) 教員を始めた55年前の状況が、そのころの阪神間が、今の三田である。学区が全部分かれていて5の取り合いと、越境入学をいかにして実現するか、そういった喧々諤々の半世紀前だ。阪神学区から受験生は私学へ行ってしまった。そのおかげで大阪私学が伸びて、今の大阪私学の受験上位校がある。三田市は篠山の25～30年前の状況が起こっている。上り電車に乗ったらいいことがある、大学へ行ったら何かいいことがある。大学で何をするかだが、親も子どもも教師も誤解している時期もあった。人間どう幸せかを考えたとき、過去の事例を考えたときに、今の(若い)方がどう考えているか知りたい。それと部活動の話をお聞きしたい。柏原高校の志願者は、部活動がたくさんあるから行きたいという声を聞く。部活がなかったら魅力がないのか聞きたい。
- (I 委員) 娘を見ていると部活だけではない感じで、娘なので制服も見たりしているようだ。
- (H 委員) 重きを置く方も多いかもしれないが、部活だけではないと思う。何ができるか、どんな学校の風土なのかということだと思う。部活が一番とは限らないと思う。
- (G 委員) 学校の魅力もあるが、勉強と部活を両立して一生懸命やっている子も多い。そういうところが魅力だし、自分も伸ばされるところだと言っている。野球をやっている子は、長澤先生が来られたのなら市内なら産高に行ってみようかなという話を聞くこともある。部活動は、子どもの中では全く関係ないわけではないと思う。3年間どれだけ頑張れるかということも、後々大人になってから大事なところだと思うので、そういう面も伸ばしてほしい。たくさん選べるところがあって、一生懸命取り組むことがあればいいなあというのがある。
- (F 委員) 部活がどのくらい活発かというのは影響していると思う。バスケ部がなかったら鳳鳴を選んでない可能性もある。家の方針として高学歴をめざすより、視野を広く持って柔軟な考え方で人生を選択して行ってほしいと思っている。
- (J 委員) 私自身篠山の生まれではなく、子どももまだ小学6年生なので、高校のことは知らないことが多い。漠然と主人は、息子に対して大学は行ってほしいと思っ

ている。高校は大学に行くステップなので、（高校内で）学力の差があることを気にしている。下位層の子が多いところへ行くと、進学したいけど伸びが悪かったりするのではないか気にしているようだ。私の希望としては、途中なので田舎でのんびり過ごしてほしいと思っている。家庭内でも意見がそれぞれあって難しいところがある。

(K 委員) 長男も次男も中学でホッケーをやっていた。小6の息子もホッケーをやっている。心配なのは市内の高校にホッケー部がないことで、県外に出ないといけないことになる。産業にもあったがなくなったと聞いた。せっかく小学校からホッケーに力を入れてきてうまくても、高校は市内に受け皿がないのが残念で仕方がない。ホッケーをやりたい子からすると篠山に進学先がない。県外に行くしかない。できればホッケー部を男子も女子も篠山に復活させてほしい。

(Aアドバイザー) 私が校長をしているときにホッケー部を廃部した。クラブ活動に使える経費の7割をホッケー部が全国大会、近畿大会に使ってしまう。あと3割で全ての部活をみないといけない。子どもたちを預かっている以上、みんなに同じように部活の費用を使えるようにしてやらないといけない。私立ではないので、公立の場合、親御さんにも負担をかけながらクラブ活動をしている。難しいところだ。

昔は、県立高校はその地域に1校しかなく、普通科に行きたかったらそこに行くしかなかった。東大へ行く子もいるが、卒業して農業をする子の方が多い。これが本来の全国全ての戦争に負けた後の10年～15年間の学校だった。それがなぜ変わったかという、人口が増えてランクが勝手にできていった。

ご懸念の件、全て高校でも完全に習熟度別でやっている。

(委員 長) 部活動をしたい子にとっては、部活動が大きなウエイトになっている。今日もふるさとPR奨励金で、HYOGO HEARTSという市内のホッケークラブの子どもたちが来てくれることになっている。中学生まではよい成績をあげてPRをしてくれるが、ホッケーをする子は皆出て行ってしまう。野球をしたい子も出て行ってしまう。やはり部活の充実も大きいところだと思う。

最後に、校長先生方に勉強、部活、その他Eアドバイザーの話で勉強のできる子、できない子いろいろあると言われましたが、子どもたちの気質も含めて、今の現状を報告していただきたい。

(Eアドバイザー) 誤解のないように付け加えておく。Aアドバイザーも習熟度別と言われたが、現実として習熟度別があったから40人を排除しないといけないという論争もあった。5クラスにすると先生の配置などで問題がある。4クラスでやって、成績をどうにかするということだったが、そうならなかった。それで、いろんなコースを今一生懸命やってもらっている。さっき言った内容は、分母が減っていく中で三すくみになるというのが一番の私の主張。今の4、4、1の9クラス360人で、市内の子が100%行くには十分すぎるほどある。数字を見ても4割はよそへ行っている。有り余る席があるのによそへ行くのは、それぞれ

の能力があって選択しているからだ。そういう私情のことがあったり、学校の本当の意義、もっと踏み込んで言うと、農業が大事だ、そしたら東雲をどうするかとなったとき、市立でもやりますと言えるか言えないか。農業の都だ、これからの人材を育てていくんだ、では市立でやりますか。いろんな手立てや支援をやってきた東雲をどうするのか。原点も含めて4, 4, 1をどうするのか。価値観をどうするのかを含めていくと、私情のことも考えながらやると、バランスのとれた今、考えをしっかりとまとめていかないといけない。てんでばらばらでやっていると、時間がいくらあっても足りない。そこで、市長はどう考えているのか1回ちゃんと話してほしい。それに対して我々はどうか考える。東雲を市立でやる根性はあるのか、そういうトップとしての経営方針、教育の原点をどうイメージしているのか、そこでこの話をしてくださいと言われるなら分かる、議論は集中していくが、好きなことを話しては終わらない。

(委員長) 現状について、簡潔にお話しいただきたい。

(Lオブザーバー) いろんな生徒のことを考えながら習熟度をしている。STEAMのことを評価していただいたように、新しい学科に向けて職員一つになって頑張ろうとしている。特に1年生は部活に入っている子が多い。どの部もたくさん入って頑張っている。今評価していただいたように、前に進んでいる。

(Mオブザーバー) 特色ある4科ということで、特色ある活動をしている。産業高校ということで就職がメインかと思うが、進学を希望している生徒も増えてきている。産業高校という特色を生かして、専門性を生かして大学進学している子も増えている。生徒の希望に応じて就職進学に対応するように取り組んでいる。資格を頑張るという雰囲気もある。部活動も加入率が多く熱心に頑張っている。専門的な取組、部活動、学校行事など今後も魅力発信をしていきたい。

(Nオブザーバー) 東雲高校は不利な条件を考え出すときりがない。立地条件では京都、大阪に近いのに兵庫県にある県立高校であること、農業ということで考えると県で一番古い有馬、氷上、産業高校と4校あって、その中で生き残っていかないといけない。産業教育が重視されている中で、1学年1学級と少ない数であるが、皆よく伸びる子たちだ。高大連携事業を今後も積極的に推し進めていきたい。STEAM教育というのは総合的な探究ということで、自主的な研究活動を重視するので、多少の学力の差があってもカバーできる。

小規模校であるが、中に3つの類型がある。今回、食品加工の類型枠を取っ払い、食品加工関係の科目を2・3年次に全員履修し、第6次産業教育を本格的に始める。そのことで就職進学にもプラスになるようにもっていこうとしている。明日のオープンハイスクールで広報させていただく。

(委員長) 市長としては、委員のみんなの意見を聴いたうえで結論を出したいと思っている。これまで県立3高校それぞれ特色があって、恵まれた環境にあったと思う。市内で育った子どもたちが市内の高校に通って切磋琢磨し合い、また卒業

して市内でいろんなことを助け合っていくのは大切なことで、市内の3高校が頑張ってもらうのは大切なことということでやってきた。丹波篠山には胸を張れるような街づくりやいろんな資源がたくさんあるので、市内の高校へ行って学んで街づくりを考えてほしい。東雲も農業高校として地域と連携が取れているので残ってもらいたいということで取り組んできた。鳳鳴も産高も同じことだ。こここのところ市外の高校へ行く傾向があったので、市内の3高校を盛り上げるように取り組んできた。360人の定員枠があるが、出生数が少し前まで300人を維持してきたが去年は200人少なくなった。少子化の時代になってこの厳しい数字を見たときに、3高校ともやっていくのは無理がある。県が発展的統合と考えている以上、残してくれと市民挙げてやっていっても無理なので、この中で3高校を2校にするのか、1校にするのか、その中で子どもたちが何をどのように頑張っていけるような環境を作れるのかということになってくるのではないかと思っている。いろいろな観点から議論をしたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

(○ 委員) 市長が3校を2校にという数の問題を言われたが、非常に抵抗がある。同窓会というものはそれぞれ数万人の卒業生がいる。ふるさとの発展にはふるさとの教育の発展であり同窓生の関心も高いし、どういう見解を持っているか尋ねられるが、私は側面から学校を盛り上げていく立場なので言えない。県立高校の問題なので、委員長として数の問題を言わないでいただきたい。鳳鳴高校の問題では、STEAM教育の導入などで先生方も活発な取り組みをされて定員に戻りつつあることだけでなく、内容も充実してきたので、いい傾向が出てきた。一つクラブ活動のことで報告したい。親しい人から、息子が少年サッカーの時代からやってきたが鳳鳴の現状からすると、先輩が2・3人しかいないので市外の高校を受ける気持ちになりつつあると相談を受けた。鳳鳴を受けて、サッカー部を中学校の仲間とともに1から作り直していくことも高校時代に体験できる青春ではないかと助言をして、この子は鳳鳴に入学し、中学校のメンバーと共にサッカー部に入部した。今年9名が入部し11名となり、他校との試合ができるようになった。そして、サッカー部のOBでサッカーゴールを寄附された方が出てきた。1年生の9名の生徒は入ってよかったと思っていると思う。自分たちの熱意によりOBや同窓生の中から応援する人が出てきた。9名が頑張っただけで続けたら、部員は増えてくると思う。そういう部分だけでも復活してくる。

同窓会としては、会報やホームページで県下で4校だけが指定を受けた素晴らしい学科を作られることをOBの方に伝えると共に、地域の方々には選択してほしい学科ができたことを伝えたい。何とか3校残したいという気持ちで、前向きにこの委員会を取り組んでいきたい。どうしたらこの状況を脱却し、昔のように戻れないか夢見ながらこの話し合いをしたい。

(委員長) 次回はもう一度全体の中で、今の部活動の状況や何か参考になる資料があれば

お示しした上で、委員の皆様にも、課題が出てきている中で、丹波篠山市の将来をどのように考えていくかということを議論していただきたい。

9 閉会